

©東京新聞



在宅医療は文字通り  
 自宅で医療なので、  
 脳梗塞や心筋梗塞、肺  
 炎など急性疾患には十

Dr. 松井英男の



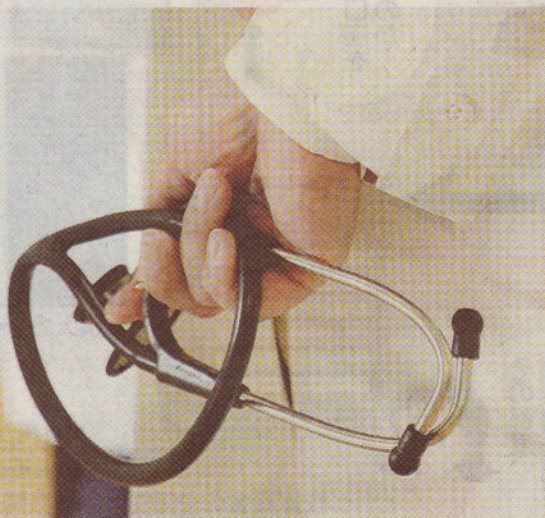
## 在宅医療 のカルテ

### 患者への医療

対応できない場合があります。そのため、入院治療のできる病院との連携が必要です。確かに医療には限界があります。ですが、慢性疾患や終末期医療を受ける患者さんが求めるのは、日常の心配事の相談だったり、病状などの説明だったりするので。薬の処方や血液検査、胃ろうや尿道バルーンの交換など、居宅でもできる医療はあります。医療よりむしろ介護の方が重要で、それなしには暮らせない患者さんが多いのも事実です。どこまで医療を提供するかは、在宅療養を

## 診療所で異なるタイプ

支援する診療所で違います。例えば各診療科をそろえ、エックス線やコンピューター断層撮影(CT)検査など病院並みの医療を提供する積極型、ハイテク型の診療所があります。他方、訪問看護など介護保険サービスも提供し、介護施設などを併設する複合型の診療所もあります。また、外来診療を行わない在宅専門や、介護付き老人ホームのような施設



患者の満足を第一に

内の診療が主なところもあります。当院は外来診療も行いますが、居宅での患者さんやご家族のQOL(生活の満足度)を重視した診療を心がけています。在宅療養支援診療所の届け出数は二〇一一年に一万三千を超えましたが、半数は単独で機能し、在宅での看取りや緊急往診をほとんど行わない施設もあります。慢性疾患で厚生労働省は「病院から在宅へ」という医療の転換を進めています。そのためには、いつでもどこでも適切な医療と介護が提供できる体制作りが必要です。

(川崎高津診療所院長)

載 次回は四月十日掲